

(10) 中学校美術部会

会 長 山崎 源生 (県立中村中)
副会長 岸本 和幸 (中村西中)
事務局 尾崎 浩史 (市立中村中)

1. 研究主題「豊かな感性と創造性を育て、表現力を高める造形教育」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和6年 5月7日(火)	・四万十市教育研究会 組織総会 ・内容「役員選出、研究主題設定、年間計画」	中村中学校	3名参加
令和6年 8月1日(木)	・第1回学習会(講義・研究・情報共有) ・講義内容「ロイロノート活用方法について」 ・講師 尾崎浩史 教諭(中村中) ・情報共有「美術科におけるICT活用について」	中村中学校	3名参加
令和6年 11月22日(金)	・第33回四国造形教育研究大会(高知大会)参加 大会テーマ「造形的な見方・考え方を働かせ、豊かな感性と想像力を育む」	南国市立 香長中学校	3名参加

3. (1) 教育DX学習会(講義・研究)

- ・講義内容「ロイロノート活用方法について」

本会の会員である尾崎教諭による「ロイロノート活用方法について」の講義・研修を行った。

教育DXの推進を各校・各教科で行っているが、ICTをどのように活用しているのか、また、ロイロノートの効果的な使い方とはどのようなものか、美術科専門の教員のみで検証していった。



(2) 四国造形教育研究大会(高知大会)に参加して

本部会の取り組みとして参加している「幡多造形教育研究大会」が「四国造形教育研究大会(高知大会・香長中)」への参加に代替えとしたため、それに参加した。1年生(鑑賞)と2年生(工芸)の授業を参観した。授業者自身が風神雷神図屏風の複製(実物大)を自作したり、暗い部屋の中で蝋燭を灯しての鑑賞授業は、今までの概念を打ち破るような発想で刺激にもなった。いずれの授業でも流れの中に、当たり前のようにICT(今回はロイロノート)が導入され、途中参照や他者参照によって、生徒は自分の考えのヒントを得ていた。記念講演に於いても、指導の個別化や様々な視点について、納得のいく見解を聞くことができた。



4. 今年度の成果と課題



外部からの講師招聘等はできなかったが、美術の専門教員が一同に研修することで新しい取り組みの研究や情報の共有ができた。また、四国造形教育研究大会に参加できたことは、刺激もあり元気ももらえた。課題は今後主流になっていく「教育DX」に対して、美術科としていかに対応していくか。昨年度6名いた部員も今年度は3名となり、来年度は新たな会員の参加を期待したい。